

中国情勢 (東シナ海・太平洋・日本海)

令和5年2月
防衛省

(ダイジェスト) 我が国周辺における中国の海洋活動の例

- 中国は高い水準での国防費の増加を背景に、軍事力を広範かつ急速に強化
- 中国軍は、より遠方の海空域において活動する能力を持つことを目指していると考えられる
- 海洋における軍の活動を質・量ともに急速に拡大

用例	
航空機	→
艦艇	→
領海通航	→

※情報収集艦・測量艦は破線



日本海での活動

太平洋への進出

東シナ海での活発な活動

南シナ海での活動(別資料参照)

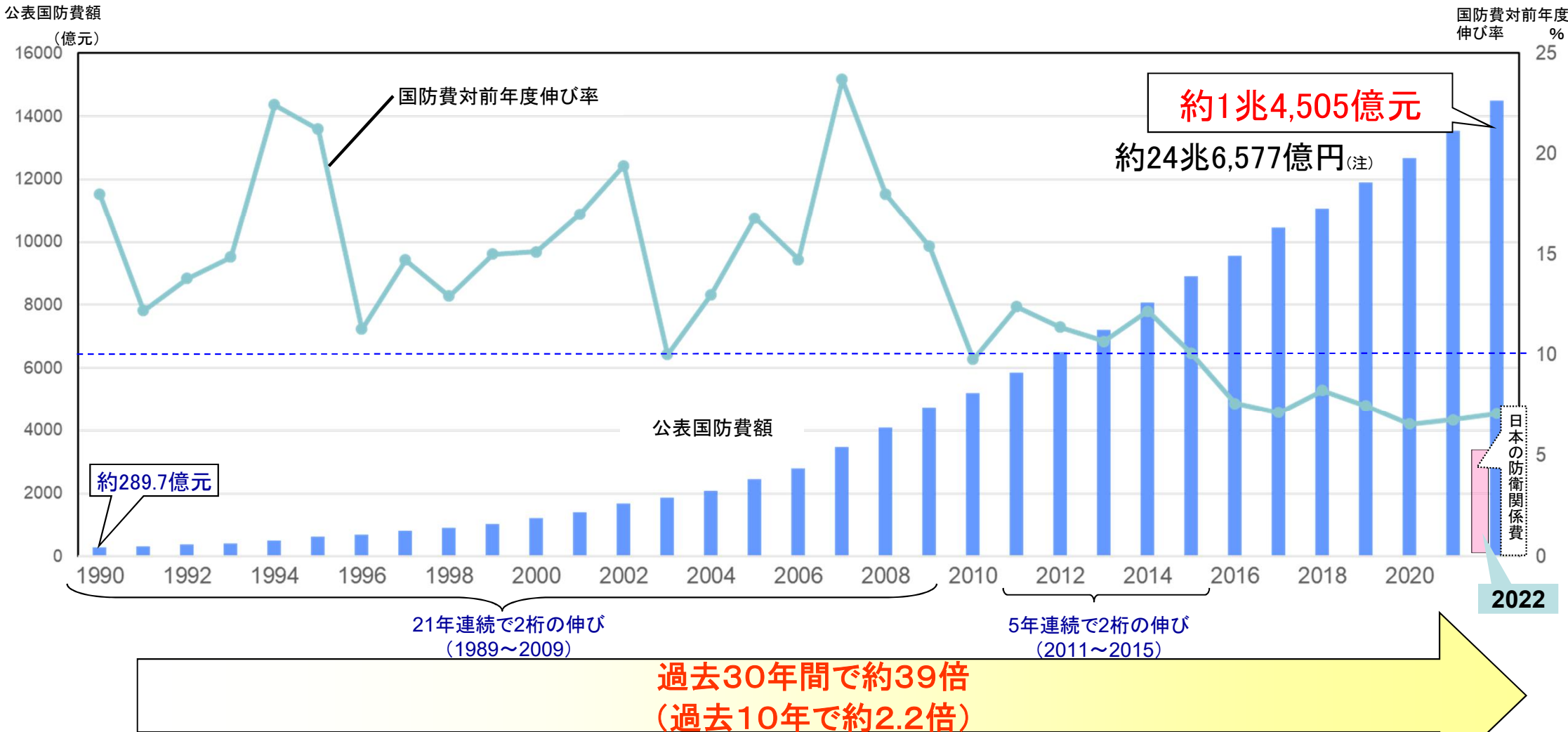
(注)各事象の概要及び事象が生起した位置関係については報道等に基づくイメージ。
列島線の位置関係については米国防省報告書に基づく。

国防費の増加

中国の国防費

中国の公表国防費

- 公表している国防費は、中国が実際に軍事目的に支出している額の一部（研究開発や外国からの兵器調達などが含まれていない）にすぎないと見られている
- 実際の国防支出(2021年)は、公表値より著しく多いとの分析も（米国防省報告（2022年））



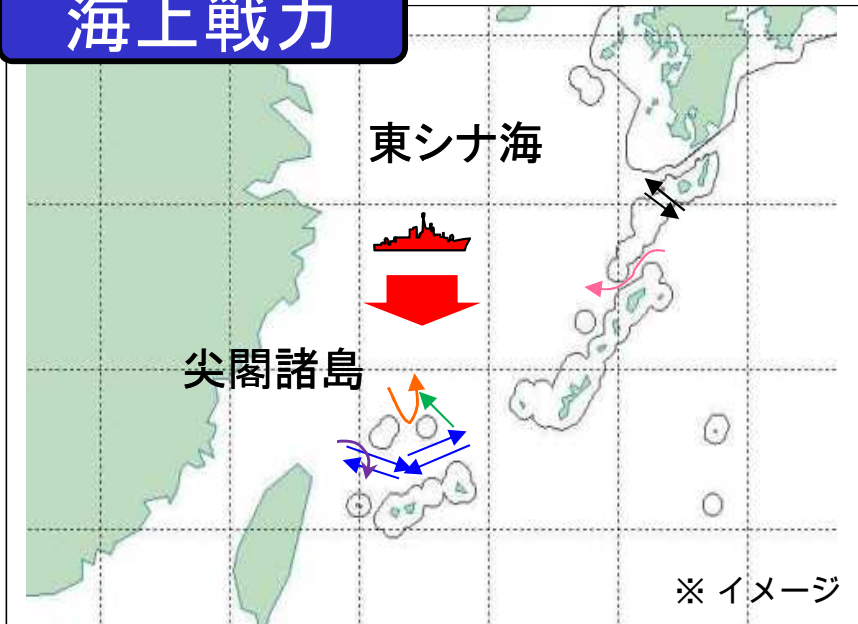
※国防費は15年度まで及び17年度は、中央財政支出における国防予算額。
16年度及び18年度以降は、中央本級支出(中央財政支出から地方移転支出等を引いたもの)における国防予算額。

(注) 1元=17円(2022年度の出納官吏レート)で機械的に換算

東シナ海・太平洋・日本海

東シナ海での活動

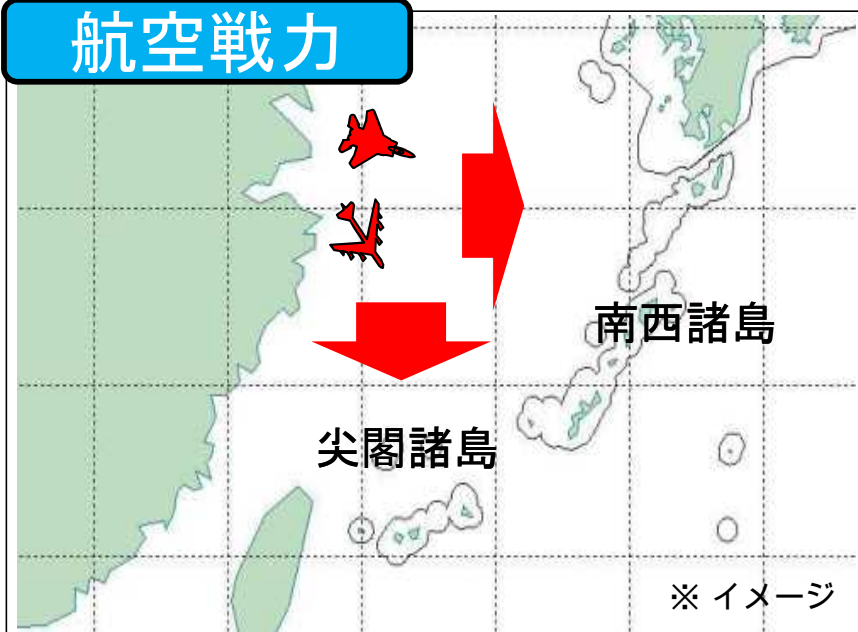
海上戦力



- 中国海軍艦艇は近年、その平素からの活動海域を南方向に拡大
- 日本の尖閣諸島に近い海域で恒常的に活動
- 2016年6月、中国海軍フリゲート1隻が尖閣諸島周辺の接続水域に入域 (中国海軍戦闘艦艇としては初めて) (図中オレンジの矢印)
- 2015年及び2016年、中国海軍情報収集艦による活動も、尖閣諸島周辺で複数回確認 (図中青の矢印)
- 2018年1月、中国海軍潜水艦が尖閣諸島周辺の接続水域で潜水航行(初確認)。同日、フリゲートも同水域に入域 (図中緑の矢印)
- 2020年6月、2021年9月、中国軍と推定される潜水艦が接続水域内を潜水航行 (図中ピンクの矢印)
- 2021年11月、2022年4月、7月、9月、11月、12月、中国海軍測量艦が日本の領海を航行 (図中黒の矢印)
- 2022年7月、中国海軍フリゲート1隻が尖閣諸島周辺の接続水域に入域 (図中紫の矢印)



航空戦力



- 空自による中国機に対する緊急発進(スクランブル)の回数は引き続き高い水準 ⇒ 2016年度には過去最多
- 中国軍用機の東シナ海における活動範囲は、東及び南方向に拡大する傾向
- 尖閣諸島近傍での中国軍用機の活動範囲が南方向に拡大する傾向

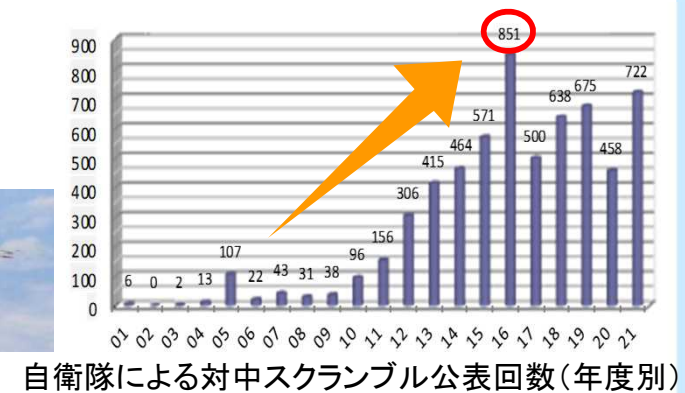
Su-30戦闘機



Tu-154情報収集機



我が国周辺で確認された軍用機の例



太平洋への進出

(資料源) 統合幕僚監部(写真含)

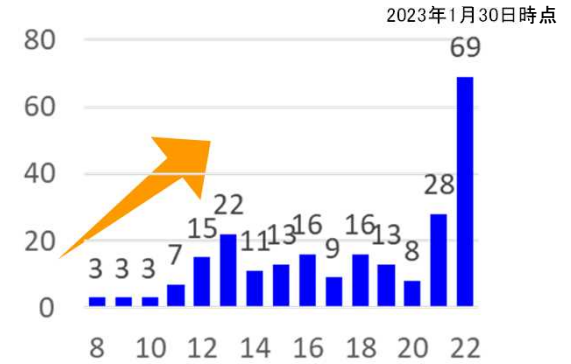
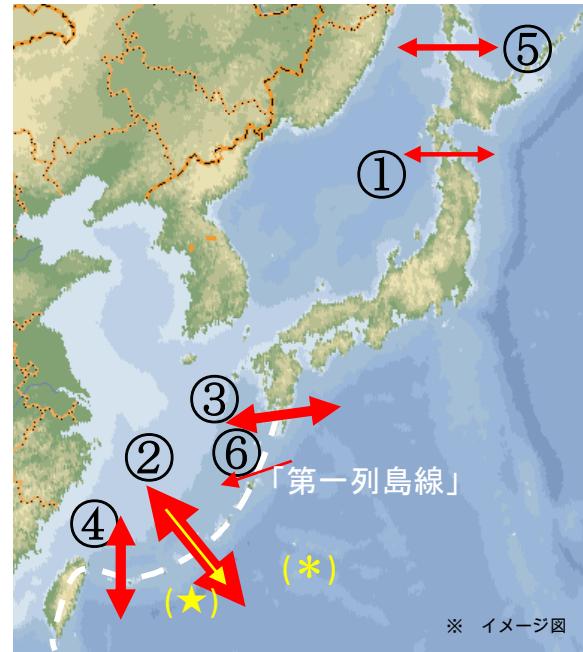
海上戦力

【外洋への展開能力の向上】

- 中国海軍艦艇は高い頻度で太平洋へ進出
- 進出経路は多様化
 - ①津軽海峡、②沖縄・宮古島間、③大隅海峡、④与那国島・仲之神島間、⑤宗谷海峡、⑥奄美大島・横当島間

【外洋での運用能力の向上】

- 太平洋における海軍三艦隊合同演習
- 2016年12月、2018年4月、2019年6月、2020年4月、2021年4・12月、2022年5月・12月、空母「遼寧」が太平洋へ進出(★)
- 2018年4月、2020年4月、2021年4・12月、2022年5月・12月、空母「遼寧」から艦載戦闘機(推定)が飛行(*)



中国戦闘艦艇の南西諸島及び宗谷・津軽海峡周辺での活動回数(年度別・公表ベース)



沖縄・宮古島間を通過する空母「遼寧」

航空戦力

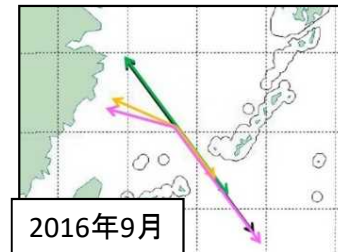
【沖縄本島-宮古島間を通過しての太平洋進出】

- 軍用機の種類は多様化
 - Y-8早期警戒機、H-6爆撃機、Y-8情報収集機、Y-9情報収集機、Tu-154情報収集機、Su-30戦闘機、Y-8電子戦機、TB-001偵察/攻撃型無人機、BZK-005偵察型無人機、WZ-7偵察型無人機
- 飛行経路も多様化

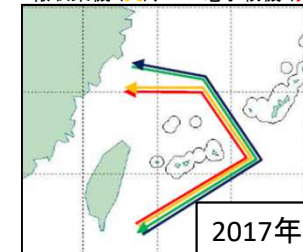
【自衛隊の対応】

- 自衛隊機は、国際法及び自衛隊法に基づいて対領空侵犯措置を実施

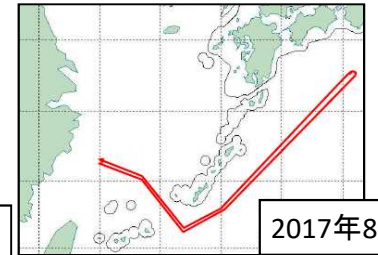
H-6爆撃機(ピンク)4機、Y-8情報収集機(緑)、Tu-154情報収集機(黒)、推定戦闘機2機(黄)



H-6爆撃機(緑4機 & 青4機)、Y-8情報収集機(黄)、Y-8電子戦機(赤)



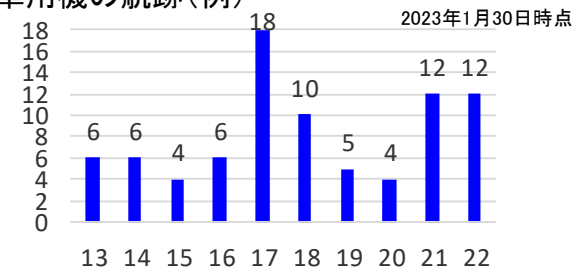
H-6爆撃機6機(赤)



我が国周辺における中国軍用機の航跡(例)



紀伊半島沖まで進出したH-6爆撃機



中国軍用機の沖・宮間通過公表回数(年度別)

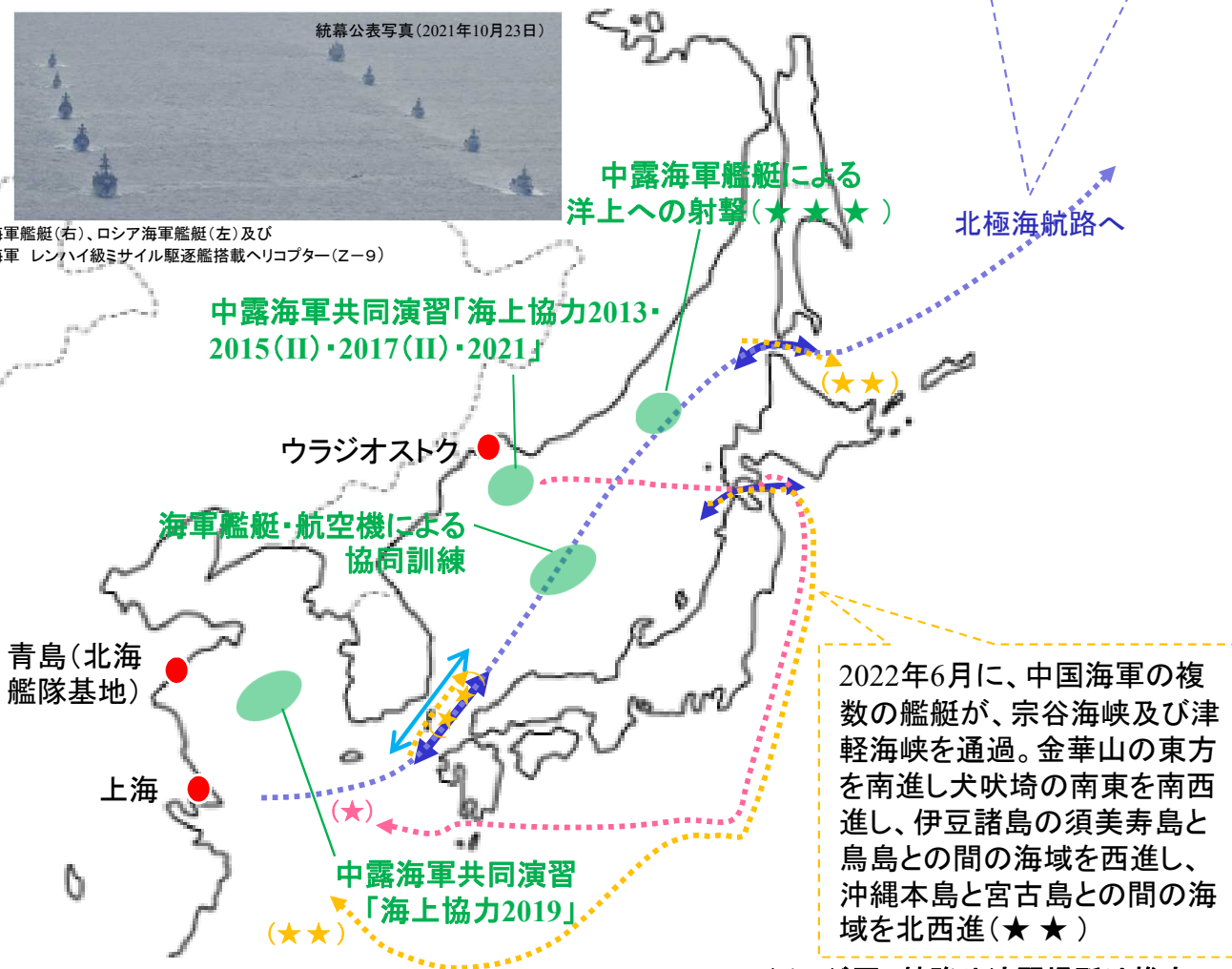
中国は海上戦力・航空戦力ともに、日本海での活動を一層活発化させ、今後も拡大・活発化

我が国を周回させる形で航行する中露艦艇(例)

1999年以降、中国は極地観測船「雪龍」を使用した北極観測を実施。



中国海軍艦艇(右)、ロシア海軍艦艇(左)及び中国海軍 レンハイ級ミサイル駆逐艦搭載ヘリコプター(Z-9)



2022年6月に、中国海軍の複数の艦艇が、宗谷海峡及び津軽海峡を通過。金華山の東方を南進し犬吠埼の南東を南西進し、伊豆諸島の須美寿島と鳥島との間の海域を西進し、沖縄本島と宮古島との間の海域を北西進(★★)

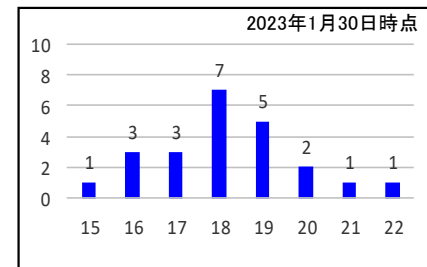
※イメージ図。航路や演習場所は推定

海上戦力

- 2016年8月、中国海軍艦隊による「対抗演習」※の実施が公表(初)。2017年1月にも、同海域で海軍艦艇・航空機が協同訓練を実施
※ 対抗形式で行われる実戦的な演習を意味
- 2013年・2015年・2017・2021年にはウラジオストクの日本海で中露海軍共同演習「海上協力」を実施
※ 2021年の「海上協力」後には、中露艦艇が津軽海峡を通過し、犬吠埼東方を南進し伊豆諸島南方を西進後、大隅海峡を通過し、東シナ海を航行(★)
- 2022年9月、ロシア軍の軍事演習「ヴォストーク2022」に、中国艦艇が初参加。同月3日、北海道の西方約190kmの海域において、中露海軍艦艇6隻が順に、洋上へ機関銃による射撃を実施(★★★)。その後、中露海軍艦艇は日本周辺で共同航行を実施。

航空戦力

- 2016年1月、中国軍用機による日本海進出が初確認
- 中露両国の爆撃機が長距離共同飛行を実施(19年7月:東シナ海～日本海、20年12月:東シナ海～日本海～太平洋、21年11月:日本海～東シナ海～太平洋、22年5月:東シナ海～日本海～太平洋、22年11月:日本海～東シナ海～太平洋)



2022年11月、長距離共同飛行を実施した中国のH-6爆撃機(上)及びロシアのTu-95MS爆撃機(下)

中国軍機の対馬海峡通過公表回数(年度別)